

おめでとう 藤井聡太君 八冠達成

橋口 邦紘

明けましておめでとうございます。

10月11日夜藤井君の八冠達成報道後編集部より感想を書く様依頼のメールが来ました。

気ばかり焦って何も浮かびません、こんな時に「観る将」の頼りになるのがあの棋士達です。

永瀬王座勝てば3人目の永世称号、名誉王座獲得、藤井七冠勝てば史上初の八冠達成となる大一番、思えば2017年藤井君が四段の時「炎の七番勝負」第2局永瀬六段戦藤井君のミスにより永瀬六段勝利、対局後藤井君は「永瀬先生は大変強いので教われた事は光栄ですし、これから同じ様な気持ちで戦って行きたいです」と語った。だが羽生三冠には勝った為、中学生が羽生さんを負かしたと大ニュースとなり、スポーツ新聞の一面を飾った。対局後羽生さんは「凄い人が現れたなと思いました」とコメントした。

王座戦対局前藤井七冠「少しでも成長したところを見せられればと思っています」、永瀬王座「実績と勢いと実力を兼ね備えている藤井七冠で、とても厳しいとは思っていますが、皆様に良い将棋をお見せ出来ればと思っています」田中寅彦九段「藤井さんは此のシリーズ一番苦労した対局と思います、本当に凄いドラマが起きました、だからこそ今回これだけの素晴らしい将棋が出来たと思います。

永瀬王座は永世称号が掛かっている大事な対局と同時に将来こうなる事を予想して、研究パートナーとして藤井さんを若い時から追っかけていました、格上の棋士が頭を下げと一緒に将棋の勉強をしませんかとお願ひしたらこそ今回これだけの素晴らしい将棋が出来たと思います。

八大タイトルの他に一般棋戦として、NHK杯、銀河線、将棋日本シリーズ、朝日杯将棋オープン戦が有りますが昨年度全て優勝、4棋戦独占も史上初、藤井八冠が出られる全ての戦いに勝っています。羽生さんの時は十冠で勿論取りました、私はこう言う事はもう三度と起こらないと散々言いましたが、26年経ってそれが起きました、信じられない事を2度も見ました本当に幸せです。

トッププロはどんなに強くても勝率7割、時々8割を超える棋士が居ましたが続きませんでした、藤井さんは続けています。8割を続けるのは脅威です。

八冠になると、将棋普及の為の活動もこれまで以上に増えます、トッププロになると、調子を崩したり成績が落ちる事も多いです、今後藤井さんがどうなるか心配です。帰宅しても寛ぐ暇は有りません、免状に手書きの署名が待っています。(アマチュア向けの「段位を公認する証」現在3ヵ月1,000本以上が待っている)、此の署名は「竜王」「名人」の仕事で、手書きなので大変です。月300本が限界で、勿論羽生善治連盟会長もサインします、つまり七冠と八冠横並びの免状が貰えます、当然これを見越して1年遅らせた申請者も大勢います、大注目的なのです。

TV司会者「昨日の1分将棋のあの一手は、永瀬王座断然有利な状況で(AI診断99対1%)、永瀬王座が「5五馬」を指した後、何度も髪の毛をかきむしり、天を仰ぎましたが何

が起きたのですか」田中寅彦九段「読み切れて無かった、自分が勝ちだと分かっていたのだけど勝ちが見え無かった、普通に駒を捨てて王手で行けば永瀬さんなら詰んでいたと思います。藤井さんは午前中から苦戦していました、永瀬さんは藤井さんが「負けました」という道筋を作ったはずだったのがそこで詰まし損ねたという大事件が起きたのです。

(AI診断1対99%が99対1%に逆転した)

加藤一二三九段「21歳、デビュー7年弱でタイトル総なめですか、藤井八冠快挙ですよ。タイトル戦という大きな舞台の中で身に付けた局面を複雑にして、粘って、勝ちを拾うという第3の戦術でした。

デビュー間もない頃から得意だった一直線の攻め合い、対局を重ねる内に感覚的に体得した渋い受けと共に、藤井将棋の大きな柱となっている事が、八冠制覇の対局で明らかになりました。永瀬さんの角換わりから急戦で仕掛けるという作戦は悪くありません。研究して練って来たのでしよう。ただ、先手「5三馬」の局面は先手「4二金」で必勝でした、持ち駒はいっぱい有りましたし、良く研究して指して欲しかったです。奨励会初段でも出来る決め手でした。

「永瀬王座は何故その手を指したのか」

将棋AI「水匠」を開発した弁護士杉村達也さん「藤井先生がどんな手を指そうとも永瀬王座が勝ちだということまで来ていましたので、もうゲームとしては将棋AIの解析は終わっていた試合かなと思われます。藤井さんが「4銀、4四桂馬、2四桂馬」どれを選んでも永瀬王座の優位は変わらぬままでした、だが藤井さんが選んだ「5五銀」の返し手は複数有りますが、形勢が変わらない手は、「4二金」だけしか有りません、それ以外の最善手は形勢が一気に悪化してしまう一手だったのです。

対局も終盤に入り互いに1分という持ち時間の中で間違いの無い一手を求められた場合、そんな中ミスが出易い選択肢を相手に与え、惑わせる、それこそが「藤井流魔の一手」でした。正解は有るけども発見し難い手だとか、正解に見える手が他に有る様な場面を作り出すという形で、「人間的な勝負術」ですね「畏を張る一手とか相手を誘い込む一手は」は「魔の一手」と言っても良いと思います」「AIは「魔の一手」を最善手としないのか?」「AIは相手が間違いの無い事を前提にしているから、相手に間違ってもらおうという選択はしないからです。」

相手がミスしてしまう事も有りますが、それ以上にミスさせた事が藤井さんの凄さだと思います。藤井さんは不利な時に相手にミスさせ様としています。その「終盤力、勝負術」が素晴らしいのも藤井さんの特徴です

深浦康市九段「藤井さんが相手だったので非常にリードしていても怖かったと思いますよ、ですので思い切り踏み込めない、普段の将棋が指せなかったのではないのでしょうか」

編集後記

☆ ★ ☆ ★

会員の近況報告をお寄せください。